

市政トピックス

観光姉妹都市提携50年―仙台市・徳島市が相互に訪問団を派遣

本市と徳島市が昭和45年に観光姉妹都市提携に関する協定を締結してから、今年で50年目。両市はこれまで「仙台七夕まつり」と徳島市の「阿波おどり」という、それぞれの伝統行事を通じて、友好を深めてきました。

節目の年となる今年には、両市でさまざまな取り組みを実施。七夕まつり開催中の8月6日には、徳島市長を団長とする「徳島市阿波おどり親善訪問団」が、市民広場やサンモール一番町商店街など市内4カ所ですて華やかな阿波おどりを披露しました。また、観客が飛び入り参加する「輪踊り」も行われ、多くの市民が訪問団と一緒に踊りを楽しんでいました。



▲七夕まつりで披露された阿波おどり。「ヤットサー、ヤットサー」という元気のいい掛け声と鼓、三味線の美しい音色が響き渡りました



▲阿波おどりに引けを取らない、迫力あるすずめ踊りの演舞に、会場中から大きな拍手が送られました

節目の年となる今年には、両市でさまざまな取り組みを実施。七夕まつり開催中の8月6日には、徳島市長を団長とする「徳島市阿波おどり親善訪問団」が、市民広場やサンモール一番町商店街など市内4カ所ですて華やかな阿波おどりを披露しました。また、観客が飛び入り参加する「輪踊り」も行われ、多くの市民が訪問団と一緒に踊りを楽しんでいました。

市政トピックス

東京2020オリ・パラの事前合宿誘致を進めています

いよいよ来年に迫った東京2020オリリンピック・パラリンピック。市では、ホストタウンとして登録しているイタリア共和国をはじめ、大会参加国の事前合宿の誘致を進めています。

市政トピックス

入館者3万人達成―史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設

平成29年7月に開館した史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設は、9月2日に入館者数が3万人を達成しました。当施設は、国分寺・国分尼寺の創建や、平安時代に起きた地震からの復興の様子を出土品やパネルで紹介しており、地域の歴史を学ぶことができます。

市政トピックス

沿岸部への思いを伝える―海辺のメモリアルソーダ

東日本大震災で被災した本市沿岸部に対するさまざまな思いを昔懐かしいソーダに込めた「海辺のメモリアルソーダ」を、せんだい3・11メモリアル交流館で8月1日から販売しています。



▲1本200円(税込)。ミニ漫画ごとに4回、季節ごとに更新します

市政トピックス

市政トピックス

行財政改革の取り組みを進めています

4コマ漫画を手掛ける佐藤ジュンコさんが、沿岸部の人々の震災前後の思い出や活動を描いたミニ漫画「海辺のメモリアル帖」が付いています。ぜひご覧ください。

平成28年3月に策定した「行財政改革推進プラン2016」に基づく平成30年度の行財政改革の実績を取りまとめました。計画に掲げる49の項目による効果額は、平成30年度が約58億円で、計画当初からの累積効果額は約172億円となっています。

情報システム最適化の推進

市税や国民健康保険料等の収納率の向上

民間活力による事業の推進

◎「行財政改革推進プラン2016」の実績は、市役所本庁舎1階市政情報センター、宮城野区・若林区・太白区情報センターで閲覧できるほか、市ホームページでもご覧いただけます

◎「行財政改革推進プラン2016」は平成31年4月に「仙台市役所経営プラン」へと改定しました。今後も、社会情勢の変化等を踏まえながら、行財政改革の取り組みを推進していきます

致を進めています。

8月20日には本市・キューバ共和国・多賀城市・仙台育英学園の4者で事前合宿の受け入れに関する協定を締結しました。キューバ共和国代表のオリリンピック出場が決定した際には、野球・男子バレーボールの選手団を多賀城市および仙台育英学園と連携して受け入れる予定です。

また、イタリア共和国のパラリンピック代表の事前合宿地として本市が選定され、9月9日に包括的パートナーシップに関する基本協定を締結。パラ陸上、パラ水泳など最大9競技の事前合宿を行うことに加え、障害のある方も無い方も互いに支え合う、共生社会の実現を共に目指すパートナーとして、市民と選手との交流など、さまざまな関連事業において相互に協力することを合意しました。

キューバ共和国、イタリア共和国とは、400年前に伊達政宗公が派遣した慶長遣欧使節が、キューバ共和国のハバナを経由し、ローマへ訪問したという歴史的なつながりから始まり、現在までさまざまな形で親交を深めてきました。東京2020オリリンピック・パラリンピックを契機に、交流をさらに促進し、仙台・東北の魅力の世界に向けて発信していきます。

市政トピックス

最後まで夏を楽しもう―泉区民ふるさとまつり

泉区の夏の風物詩「第39回泉区民ふるさとまつり」が8月31日に七北田公園で開催。昨年度を大幅に上回る約15万人が来場し、8月最後の祭りを楽しみました。

前日まで続いた雨も上がり、当日は青空に恵まれ、来場者は屋台の料理に舌鼓を打ちながら、区内で活躍する団体によるダンス・コーラスなどのステージイベントや、ミニSLの乗車体験などを満喫。アユのつかみ取り体験コーナーにも多くの親子連れが参加し、子どもたちは、冷たい水に素足で入り、逃げ回るアユを一生懸命に追いかけました。

祭りのフィナーレでは、約4500発の花火が上がり、夏の終わりを迎える泉区の夜空を彩りました。

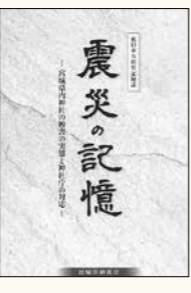


3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3.11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。



大和田雅人/著 河北新報出版センター刊



宮城県神社庁 刊

400年も海沿いに暮らしてきた人々が、突然、先祖伝来の土地を離れることになった。貞山城沿いの住民は、江戸時代から独自の風習と信仰や契約講(※)などで助け合い、情にあふれた文化と暮らしを築いてきた。

筆者はその生活と風習を丹念に取材して、震災と復興、さらに豊かな歴史を伝えています。古里の香りと四季の風など、懐かしい風景がよみがえってきました。ここに帰りたいと願う人々や、涙の賑わいを取り戻そうと励む若い人達の姿も見えます。全体に優しい視線と、郷土にかける愛情の深さを感じるとともに、復興の在り方と地域の歴史文化など、心の復興の大切さを問うている、感動の一冊です。

県内の神社も大きな被害を受けた。本殿の全壊・流失は53社、被害数は689社に上る。その実態と対応を記した書です。あの時、気仙沼の古谷館八幡神社の境内には、200人もの人たちが丘陵を駆け上がって、一命を取り留めた。うち60人が神社を避難所として、10日間の生活を送っていました。

震災で被害者同士が助け合い、立ち上がっていく、人の強さと絆の不思議さが伝わってくる。近くの社寺を目にすると、心の安らぎを覚えてきます。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585